

四句節黙想会のお話より

韓 長愚 (HAN Jang Woo) 神父 2010年3月14日(日)

《 “成長” する喜びを 》

学校で勉強する事は何の為なのか。学生達はよく「あまり生活につながっていない、あまり必要でないと思うものを、何故、私達は学ばなければならないのか」と質問します。数学や英語、歴史など後で忘れてしまうのに、何故、学ばなければならないのかと疑問を持つ事がよくあります。それは、何故なのかと言えば、成長の為です。子供たちがよく見るマンガで一番表に見えるものは暴力でしょう。戦ったりする事です。でもその奥にあるものが何かと言えば、実は成長です。どんどん強くなっていく、それを通して子供たちは満足を得るのです。子供たちが好きなゲームの中に、ロールプレイングゲームというのがあります。日本で有名なドラゴンクエストやファイナルファンタジー等です。自分が勇士、剣士とか魔法使いになって敵を倒して、世界を救うという様な内容です。その中にあるのは実は成長です。レベル1の時には弱くて、レベル100になった時には、本当に強くなって、今まで苦勞した相手を簡単に倒せるというような仕組みになっていて、どんどん強くなっていく事を楽しむ様になっています。

実は勉強も同じです。小学生の時に学ぶ内容は、小学生には難しいのです。でも、中学生になったら、あまり勉強が得意でない者でも、小学生の問題を見て、「こんなの簡単だ」と思うようになります。自分のレベルより低いものは本当に簡単なものになってしまいます。だから勉強を得意とする子供たちは、テストでストレスをあまり受けないのです。何故かという、それは遊びみたいなものだからです。思うように問題が解けて、先生や親たちに褒められるし、友達に自慢できる。そんな都合のよいものは余りないのですよね。でもレベルが合っていない子どもには、本当に難しくなります。それなのに、レベルが合っていない事に気付いていないから、成長していく事が難しくなったりします。

そして、私みたいに太っている人は「意志が弱い」などと聞いたりします。でもそれもちよっと違うのです。確かに意志が弱いかも知れませんが、十分に強いとは言えないでしょう。でも、運動に慣れていない者が、運動をする為には本当に強い意志が必要です。私は韓国にいた時に、日本語を一人で勉強したのですが、その時はマンガ等を使って勉強しました。今まで韓国語で書かれている本は一万冊以上読みました。しかし日本に来て3年経ちますが、日本語の本は殆ど読んだ事がありません。私はいつも本を読まなければならない様な“本中毒”の様な者ですが、日本語は読めるのに、なのに日本語の本を読むことがなかなか出来ないのです。慣れていないから本当に疲れます。だから、頭が痛くなります。「本がきらいだ」という人の気持ちが理解出来る様になりました。ですから、私が読む日本語の本はマンガだけです。慣れていないからです。私は韓国語の本は1冊1時間から2時間位で読むのですが、日本語の本は6時間以上かかるし疲れも何倍にもなります。そして運動も同じです。私は運動をしなければならないと自分で思い、頭の中では計画を立てる事がすごく上手いのですが、実際やってみると疲れが来ます。運動することが面倒だからやらないと思う人達の為に、自動で動く様

なものもあります。ジョウバとかペダルが勝手に回る自転車とか。実は私は両方とも買った事があります。でもそのジョウバの機械は今、金神父様の所にあります。何か乗っていると疲れるのです。自分で動かなくても疲れるのです。だから、無意識にそれに座る事を避けるようになります。ですから止まったままになって、ある時金神父様が、「自分はこういうのが好きだ」とおっしゃったのでお渡ししました。金神父様はバイクに乗られるので、その様な動きにも疲れることは無いのでしょう。もし、私がバイクを1時間位乗る事になったら疲れます。またバイクに乗りたくないと思うようになるでしょう。

私達は慣れていないものに疲れるのです。結局それは成長につながる痛みと言っても良いかもしれませんが。子供も同じです。勉強をする時、疲れないように勉強する子供たちが多いものです。頭を使っていない。ただ本を見ているだけです。それで「今日も何時間も勉強した」と自分は満足するかも知れません。しかし、実は勉強したつもりで、あまり頭が伸びていないのです。だから成長にならないのです。テストの後は相当疲れるようになります。何故かという頭を使っているからです。ですから、子供たちが勉強する時、あまり頭が疲れてないと思う時には、実は勉強をやるふりをしてだけです。時間の無駄遣いとしか言えない様なものです。

だから、教会では四旬節をとおして、私達が“ 苦しい時を過ごしながら、それによってもっと成長につながるようになりなさい” という意味を持っています。教会は名前そのものに、「イエス様の教えの為に会った人達の集まり」という意味を持っています。私達の信仰は私達が困る時、それを解決してくれる為にあるのではないのです。困る時に神様に頼らないは正しい信仰を持っていないからです。

実は、信仰は私達を成長させて、余り困らないようにさせるものです。小学生の問題が中学生や高校生にとっては容易く、問題にならないものです。ですから私達が信仰によって成長することが出来るようになったら、私達の問題はもっと他のものに向けられて行きます。

日本の言葉に「我慢は体によくない」というのがあります。日本人は体に悪いほど我慢をするのでしよう。しかし韓国人は、日本人より我慢しません。自分の思っている事を表に出します。でも、日本人とは違った病気を持っています。それは「火病」と言います。怒りの病です。この火病は英語の辞書にも載っている程、世界に有名になっている病です。ですから、我慢は体に良くないのですが、我慢しない事もまた体に良くない事だということです。我慢するのもしないのも、実は負けです。

子供たちは飴一つにけんかをしたりします。怒りを持って憎しみをもって、何故自分の飴を取ったのかと怒ったりします。皆様は当然、誰かが飴一つを食べたことに怒りを持つでしょうか。そうではないでしょう。私達は子供たちより成長しているからです。飴の問題はごく小さな問題だから何とも感じないようになります。私達は成長することによって、もっと大きなものを見ることによって、色々な小さな問題を受け入れる事が出来る様になります。そしてその様になったら苛立つとか、怒りを持つような事はあまり無い事を感じる様になります。日本人は我慢する、韓国人は我慢しない。でも、我慢という言葉が出たところで負けです。

私達は神様の愛によって、もっと大きなものを見なければなりません。カトリックの信仰が素晴らしい事の一つは、国を越えて、全世界の人々が一つにつながって、思いを一つにする事です。この様

に韓国人の私が皆様の前にいることも、一つにつながっているからです。私達は私達の愛を、世界を、全ての人類を見ることによって、色々な小さな問題たちを受け入れる事が出来ます。その様になる時、私達はあまり問題を感じないような生き方につなげて行ける様になります。

私達は人と会って成長して行くようになっていきます。韓国の生き方と、日本の生き方は少し違うところがあります。日本人の本当に良いと思われるところが、実は諸刃の剣になって、日本人を苦しませるようになっていきます。それは、私は「配慮」だと思います。相手の事を思ってやさしく言葉をかけます。それは本当に立派な事です。でもそれが、人々を怖くさせます。渋谷教会で私は信者の方々と一緒にキムチ作りをします。自分が食べる為に、韓国にいる母から学んで作って、意外に簡単だったので信者の人達と作っています。また、知り合いの人達に韓国式の料理を作って食べさせた事があります。皆、「おいしい」と言うのですが、そういう話ばかり聞いていると、怖くなりました。何故？本当においしいと思うのかと疑問を抱く様になるからです。韓国の人達に食べさせたら、「これ、焦げているよ」、「塩が足りない！」と直ぐ気にしないで言います。時には腹が立つのですが、でも、そういう話を聞いているから、あの人にあげる時にはもう少し塩をいれればいい、と思って解る様になります。相手の事を解るから、接する時に何か楽になります。でも、日本の優しさは時々、私には義理の様に感じられます。白い色は明るくて良いのですが、白い闇に埋められて、相手が見えないのです。だから、私が本当に相手の為になるのか、もしかしたら迷惑になっているのではないか。まずいものをおいしいと言いながら食べるのは、相当辛いものになるし、もし裏で「あんなまずい物を食べさせて、本当に困っているよ」とか言われたら、どうしようと思ったりする様になります。言ったら相手に悪いと思われる事も、話をする事が時には必要だと思います。

実は、私が日本に来て、その様に出来る様に話をしてきましたが、なかなかそうならないので、今ではあきらめる様になってしまいました。問題になるのは、私たちは恐怖をどうやって乗り越えるかの問題です。

恐怖というものは実はおかしいものです。逃げれば逃げるほど大きくなります。立ち向かおうとする時、案外「たいしたことがない」と思ったりします。逃げているうちには、本当に乗り越えることが出来ないように感じたりする事があります。今、日本では、親が子供を恐れています。力がないから？ そうではないでしょう。嫌われるのが怖いのです。だから自分の事をあまり見せようとしません。

ハリネズミのジレンマというものでしょうか。ハリネズミは冬が来ると温かくする為に隣のハリネズミに近づいて行く必要があります。問題になるのは、身体に全部針があって、近づき過ぎるとお互いを傷つける様になります。そのせいで、距離を取るしかない。でも寒いから近づくしかない。という事が人間の関係だと言うのでしょう。嫌われることが怖いから逃げているうちに、問題が出来てしまうのです。敵がない代わりに友達も出来ないのです。自分が思う事を話してしまったら、なんか思い違いによって、憎しみとか、けんかが生まれたりする事があります。でもそれをどうやって扱って行くべきかは、私たちに与えられた課題でもあります。逃げているうちは、私たちは成長する事が出来ません。ずっと逃げ続けていると、私たちは怒りをコントロールする事も出来ないし、意見が違う

者と分かり合える事が出来なくなったりするのです。逃げているうちに、私たちは本当の友達を失って行く事を忘れてはならないのです。

だから、イエス様は福音を通して、『私はあなたたちに平和を与える為ではなく、争いを与える為に来た』とおしゃっている所があります。神様の平和は、全てを隠し、ただ争いが無いことだけを意味するのではないのです。争いながら、違う考えがぶつかり合いながら、それでも助け合って行く事を意味します。私は今の韓国の大統領が大嫌いです。その人を名前で呼ぶ事もあまり無いですし、大統領と呼ぶこともないです。だから、私は李 明博（イ・ミョンバク）と呼ぶ変わりに、あだ名で呼びます。ゲゲゲの鬼太郎を知っている人ならよく分かるでしょう。そっくりでしょう。たまに説教の時にあだ名で呼ぶと、日本人の方が変な感じになるのです。何故その様な憎しみを表に出すのかと。ソウルにいる私の友達は大統領を支持しています。ですから、大統領のやっている事で私とけんかになることもあります。「あなたとはこれ以上話すことはない。電話を切れ！」等と言っても、次の日には「次はいつ遊びに来る？」となります。その様な生き方が出来ることも時には必要ではないかと思えます。もちろん、隣の隣人にそれを強いて行く事は出来ないでしょう。でも、家族になら、そういう話し合いで、自分の思う事を素直に伝えて行くのは必要だと思えます。そして、そういう関係をつくっていかうと思う時、嫌われることが怖くて逃げている間は、私たちは変わって行く事が出来ないのです。

恐怖というものは、皆持っている感情です。肉食動物と草食動物がいますが、どちらが怖さを持っているかと言えば、肉食動物の方です。何故だか分かりますか。けがをしたら、足の一本でも折ったら、狩りが出来なくて飢え死にをしてしまいます。肉食動物は身体が不自由になったらそれは死ぬ事です。だから肉食動物は草食動物を狙うのです。自分が危ない様な目にあったら直ぐに逃げられる相手を狙い、相手が恐怖で逃げるようにさせたら、自分が怪我する事なく相手を捕る事が出来ます。そういう事は人間関係でも同じです。大きな声で相手を萎縮させる、そうすると相手を自分の思うままに、煮るなり焼くなりする事が出来ます。その様なやり方が「やくざ」と言われる人のやり方です。でも実はその「やくざ」がもっと怖がっているのです。テレビ等でも報道されているように、借金の取り立てにあって困っている人が、弁護士に相談し、弁護士からその様な人達に強く言うと「借金を取り消しにするから、もう連絡しないで下さい」というような事がよくあるでしょう。相手に強くされたら、自分が困るのです。いじめられる子供たちも実は似た様な所があります。殴られる事が怖くて逃げているうちに、殴る必要もなく、相手を自分の思うままに出来るという事を子供たちも知っているのです。もし殴り返す様な者になったら、相手が困る様になります。部活等をする子供たちがその様になるのは、痛みを味わった事があって、たいした事ではないはないと分かるからです。ですから、殴るのが怖くてけんかをしないだけで殴られる事はあまり怖いと思っていないのでしょう。逃げているうちは、私たちは本当に無力になって、むなしい生き方をするようになります。

先ほど勉強の事を話しましたが、頭が疲れる事のない勉強は、時間の無駄使いと言ったのですが、私たちが成長させない信仰も正しい信仰ではありません。私たちは神様の言葉に耳を傾け、自分が話したい事だけを話してはならないのです。神様の言葉を聞くことが、私たちが成長させてくれるので

す。それを私たちは忘れてはならないのです。私たちは何が必要で、何が私たちを成長させたり、不幸にさせたりするのか。飢えた事が有る者は食べ物のおいしさが分かります。でも飢えたことがない者は、そのような事を感じたりする事はありません。私たちは前より悪くなった時、自分が不幸になったと思って、前より良くなった時、幸せになっていると思います。その目でみれば、幸せとは本当にむなしなものでもあります。強さとか大きさは絶対的なものではないのです。私たちが長いと思ったものが、もっと長いものが出た瞬間、短いものになってしまって、強いと思ったものが、もっと強いものにあった瞬間、弱いものになってしまう。長さも大きさも、偉さも全部その目で見ればむなしなものでもあります。幸せというのも同じようなものです。私たちが前より不幸だとか、前は幸せだったのと思う様な事です。だから、私たちが幸せを求める事はむなし事だという事を考えなければなりません。だから、私たちは幸せをコントロールすることが出来ます。何故？ それは私たちがどう感じるのかという問題にすぎないからです。感謝の気持ちをどのように持つかによって、私たちは幸せになったりすることがあります。私たちがあたり前だと思うこと全ては、実は神様からもらった恵みです。

チリに大きな地震がありましたよね。地震があったとき監獄が壊れて、その中にいた罪人たちがたくさん逃げ出して行きました。そして、何日か前のニュースで見たのですが、その人達の一部が監獄に戻って来ました。何故？ 外はもっとつらかったのです。食べる物も寝るところも無く、誰かが守ってくれることも無く恐怖に怯えていました。だから監獄の方がましだ。監獄にいた時の方が幸せだった。と戻って来たのです。それが私たちの問題です。今、「私は不幸だ」と思っても、実はもっともっと不幸だという状況はたくさんあるのです。もし、私たちが監獄に行く様になったらどうしようと思う様な事があるでしょう。それは本当に地獄の底の様に思えるのですが、それよりもっとひどい状況、「私を監獄に帰らせて下さい」という様な状況もあると言う事です。だから私たちが、今感じている全てのものに私たちは感謝しなければならないのです。人間が自然の中で、もともと与えられた寿命は30歳です。それは、猫とか犬をみれば分かります。猫や犬は人と共に生きる様になったら、10から15,6歳まで生きる事がよくありあます。でも、自然の中では7,8年が精一杯です。何故そんなに寿命が長くなるか分かりますか。良く寝るからです。安心して寝る事が出来るからです。人間に飼われている猫や犬は、寝ている時にさわられても安心して寝ています。自然でそのような事ができますか。寝ない動物もある位寝ることは危険な事で、寝ることによってエネルギーを回復する事はあまりないのです。ですから、人間の出産も10代、20代、30代と出産年齢があがって、30歳になってもなかなか親離れが出来ないのは90歳まで寿命が延びたからかもしれません。寿命が60歳だった時には、子供は20歳で親離れをしました。織田信長も人生50年と言ったと言われていています。私たちは90歳をみる事が出来る様な状況で生きています。100歳を超える人たちもそれほど珍しくない。そういう生き方出来ることに私たちは感謝していますか。別に感謝していないのです。何故？ あたり前だと思うからです。

経済が悪くなって、お小遣いを減らす親もいます。ある子供に親が「これからお小遣いは半分にするよ」と言ったら、「私のお金をよこせ」と、自分のお金を横取りする様な言い方をしたという話は、

ひどいように思いますが時々当たり前のようにありふれている光景でもあります。親がお小遣いをあげる事は愛によって出来る事であって、あたり前の事ではないです。自分が貰う事が当たり前だと思うから、そういう風に言ったり出来るのです。私たちは「本当に感謝している、有り難う」と言った数だけ幸せになれるという話もあります。私たちは信仰を持っている事を感謝しています。生きている事を感謝しています。食べる事が出来る事を感謝しています。そういう事が“私たちが幸せであるか、幸せでないのか”を決めてくれるのです。自由というものは、私たちの心が決めてくれる様なものです。皆、自由を求める様に思っているのです。実は自由というものは責任が伴うものです。責任を果たせない人には自由を手に入れる事が出来ないのです。商店とかに買い物に行く時、店員さんがマニュアルに頼るのを見聞きします。マニュアルは自分たちを守ってくれる支えでもあり、壁でもあります。「私はマニュアル通りにすればよい」「私は責任を絶対取らない」。しかし、マニュアルに頼る人がマニュアルに対し愚痴を言ったりすることもあります。「私は助けたいのに、マニュアルがこうなっていて、マニュアルが悪い」などと言います。

私たちが本当に自由になるためには、十字架を背負う覚悟が必要です。自分で責任を取って生きるということが本当に私たちに必要です。誰でも基本的には責任を取りたくない。だから、本当に自由になるという事はないのです。

韓国人と日本人の違いは、日本人は自分の話した事に責任をとるという事です。それだけを見れば、日本人が良くて、韓国人が悪い様に思えますが、実はそうだと切り切れる事は出来ないのです。韓国人はでたらめな事もよく言います。無責任な言葉です。問題は、日本人は責任が取りたくないからしゃべらないのです。「どこか、食べに行きたい所でもありますか」と聞いても「何でもいいですが、あっちでも良いし、こっちでも良いし・・・」。おもしろい話ですが、山に行つて道に迷った時、韓国人は道を知らない者が、いきなり皆の前に出てきて、「この真ん中の道だ、間違いはない」と言って、皆その道を行きます。それが正しかったら「ほらみる、私が正しかったでしょう」と威張るのですが、正しく無かったときには「誰だ、この道を選んだのは」とか「私が言ったわけではない」「しょうがない」「これ位大丈夫だよ」と開き直ったりします。ですから、韓国人のよく使う言葉に「大丈夫だよ」というのがあります。日本の人たちは、例え道を知っている人がいても「この道が正しいかも知れませんが、よく知らないのですよ」とか言って、誰も前に出て進もうとはしないのです。言葉に責任を取ろうという志はすごいのですが、責任は取りたくないから、しゃべらなくなる事は悲劇というのでしょうか。

変わろうとしない事は実は成長しない事にも似ています。慣れているものの方が楽だからです。新しいものは疲れるからです。だから私たちは動こうとしない事がよくあります。前に進もうと思つたら見えるものが変わるはずなのです。成長しなくて、厄の時だけ教会に頼ろうとする人がいます。そんな人には、神社がよいでしょう。初詣に行つてお願いをして、何か問題が生じた時、「あっちの神社に良いお守りがある」とか、勉強にはどこの神社のお守り、恋がしたい時はどこが良いとか。信仰は自動販売機ではありません。私たちを成長させてくれるものです。イエス様がいつも話しているのは、成長につながる言葉です。神様の国に対しても「どこかにある」とおっしゃっているのではなく、「あ

なた達の中であって、それがどんどん広がって、私たちの世界をその様に変えて行く事が出来る」という事です。私たちは周りの人達との関係を変えて行くことです。神様の国を造っていく必要があります。

また韓国の話ですが、韓国ではインターネットを利用して映画を見る人が多いです。法規上は悪い事ですよね。でも私も、金神父様も良くやっていますが。問題になるのは、それで得るものがあると言う事です。何が変わったか分かりますか？ 韓国の人たちは皆映画好きになってしまったのです。だから、韓国の人口は5000万人しかいないのですが、「怪物」という映画には1300万人の入場がありました。3人に1人の割合で観たことになります。映画を観る事が出来ない子供を除いたら、本当にすごい比率になります。「アバター」はもっとたくさんの人が見えています。映画を観た者がまた、よい映画を観たいと思うのです。それが、問題です。人とのつきあいに喜びを感じた者だけが、人とのつきあいを好むようになります。信仰の楽しみも、全ての楽しみも同じです。その楽しみを自分のものにしないと、私たちはその楽しみを求めないといけないのです。私たちは変わろうとしているのです。

また、日本人は物を大切にします。その物自体に神が宿るといった信仰があったからかも知れませんが、古い物を大切にするという事があります。昔から住んできた家を大切にすることは立派なところでもあります。韓国の人たちは逆です。引っ越しをする事が楽しいのです。「もっと大きな、もっと便利な家に住みたい」。そしてどんどん大きな家に、どんどん便利な家に住み替えて行きます。古い家は壊され、アパートに変わって行くようになります。韓国の人達は、家を壊したり、家を売ったり、新しい道を造ったりする事にそれほどストレスを感じないのです。殆どの方が思うのは、「どうやったらお金を稼いで、もっと良い家に住むことが出来るのか」で、古い家だから守らなければならないと思う人は殆どいません。でも、そういう楽しみを知っているから、そういう事を求める様になります。もちろんそういう楽しみが必要か、必要でないか、それが良いものかどうかという事は別のものです。映画など観なくても良い、便利な家に住む事を望まなくても良い、古い物を、伝統を大切にすることも大切な事だと思います。でも私たちは成長の喜びを分からなければなりません。新しいものを知って行く事、そして周りの人々と本当の絆を造って行く事を学ばなければなりません。それが私たちに与えられた、“神様につなぐ道”でもあります。

律法学者がイエス様に聞きました。「律法のうちで一番大切な立法は何ですか」。

『神様を愛し、隣人を愛することそれが一番大切なものだ』とおっしゃっています。中国に昔、孟子という方がいました。有名な方ですね。その方がある国の王様に会った時、その王様が「私たちの国民は正直です。自分の親が隣の人の羊を盗んだ事を申告してくれるような正直者もいました」と話しました。その話を聞いた孟子は、「私の思っている正直者は、そういうことを申告するものではなく隠してくれる者です」といいました。孟子という人は正しく生きる為の事を話している人だったので、何故その様な事を話したのでしょうか。実は愛が全ての元になるからです。親の事を、隣人への過ちを隠して、庇って助けようとする人は、自然に成長して行くようになるという事です。

私が読んだある本の中に、パン屋の話がありました。毎日の様にパン屋に来る青年がいました。そしていつも買うパンが一番安い、まずい食パンでした。それが1ヶ月、2ヶ月続いているので、パン屋

のお嬢さんは可哀想に思い、「同じ値段で、今日はもっとおいしいパンを売りますよ」と青年に言っても、「大丈夫です。この食パンで十分です」と言いながら、その食パンを買って行きました。そのお嬢さんは何か青年の為にしなければと思い、その一番安い食パンにこっそりバターをたくさん塗って分からないように封をして渡しました。次の日、その青年が飛び込んで来ました。「あなたは何をやったのだ！」と言い、一枚の絵を見せました。絵を描くために食パンを消しゴム代わりにしていたのでした。バターが入っているパンのせいで、何ヶ月かかかったその絵が台無しになってしまいました。でもそういう事によって、そのお嬢さんは何かを学んだでしょう。失敗が成功につながります。失敗しない者は成功もしないという事です。私たちは失敗を恐れ、ずっと逃げているのではないかと言うことを考えなければなりません。そして、自分の事を、本当に愛を持って迎えてくれる者を、恋しくない者はいないのです。

愛が全ての元になります。愛が私たちに強くしてくれます。隣人のものを盗んだ事を知った家族が、初めは隠してあげるかもしれませんが、本当の愛があれば、その様な盗みから守るように、正しい生き方の為に、一生懸命努力して導こうとしましょう。罪を犯す者は、結局それが繰り返されて、自分の身を滅ぼすことになるのです。その事を知っている者はそれを止められる事が出来るのです。止めなければならぬと自分でも感じる様になって、正しさへと導こうとするはずです。

人を助ける事を学ぶ事は、正しい信仰の生き方ではないでしょうか。人を導こうとすることはあまりにも難しいものです。神様の正義は復讐ではないのです。復讐ではなく“人々を正しい道に導く事”です。カトリックの信仰では死刑はあってはならない処罰です。何故？ それは復讐にすぎないからです。罪を犯した人を助ける事によって、他の人々を導くという目的、人を救う為に処罰があって、人に復讐をするために処罰があるのではないのです。神の正義は救う事であって、人に復讐する事ではないと言うことです。

今の世の中の正義は復讐を語っています。悪い事をやったのだから、復讐をしなければならない。罪人に対する憐れみがないのです。罪を犯したものは実は大きな問題を抱える様になります。それは簡単に考えてみると、1時間、罪を犯して、100万円を手に入れた事があると思ってみましょう。だったら20万円の為に1ヶ月一生懸命働く事は出来ますか。それがもっと難しくなるのです。「あー、1時間だけ目をつむって罪を犯したら、100万円が手に入るのに、なんで私がこんな事をやっていく必要があるのか、私はなぜこの様な事を我慢しなければならないのか、疲れる！」それが、どれだけ不幸なものか、どれだけ人を滅びに誘っているのかを考えれば、答えはすぐ出ます。罪を犯すものは、1度や2度くらいは無事に過ごす事が出来るかもしれませんが、繰り返しによって結局は捕らえられるようになります。それが私たちにある問題でもあります。

宝くじに当たった者は、子供が不幸になります。それもそのせいです。運良く手に入れたものが、地味に生きる意志を奪ってしまいます。努力して、小さな事に満足して、それを生き甲斐にして生きることが出来ないようにさせてしまうのです。おいしいものを食べれば幸せになれるのか、そうではないですよ。直ぐ慣れてしまうのです。おいしいものが当たり前の事になって、もっとおいしいものを食べなければならないのです。その時、良い方法はわざとまずいものを食べる事です。ずっとま

ずいものを食べていて、おいしいものを食べると、「あーこれはおいしいな、幸せだな」と思うようになります。

韓国のインターネットで「どうやったら、ラーメンをおいしく食べられるか」という質問に、「軍隊に戻りなさい。軍隊で食べるラーメンが一番おいしいよ」と答えたものがありました。確かにそうです。時々夢に出てきます。そして、夢から醒めたら、夢で良かったと思うようになります。悪夢の方がもっと幸せを感じさせるのではないかなと思ったりすることもあります。

私達は、結局、痛み、苦しみを拒絶して生きることが愚かなものだという事を、思い出す必要があります。痛み苦しみが、私達を本当に幸せにさせていくものだという事を考える必要があります。

うつ病というものがあるのですよね。何故うつ病になっていくか分かりますか。生活が平らになっているからです。波が無いからです。時々良い事があって、悪い事もあって、その様な流れを感じなければならないのです。学校では子供たちは色々な体験があって、先生に叱られたり、友達とけんかしたり、テストがあったり、その様なものがあるから波が作られるのです。でも家の中でずっと同じ生活を繰り返しているうちに、何が幸せか、何が不幸なのかもあまり感じなくなった時、頭の中で、勝手に波を作るのです。だから、訳もなく落ち込んで、訳もなくハイテンションになってしまいます。ですから、うつ病は躁鬱病というのです。頭の中で勝手にその波を作る様になって、訳（根拠）がないから、それを乗り越える事が出来ない。だからその波がどんどん大きくなって行って、時には自殺や色々な破滅に陥ってしまうのです。

だから、教会では一年ごとに今までの教会の歴史を振り返る事になっているのです。その中には2つの悲しい時があります。イエス様を待っている時間、そしてイエス様が受難を受け、私たちはその苦しみと犠牲を自分のものの様に感じる時間です。その時間の中で成長していくような事を教えています。

私たちは四旬節を迎えています。どんな事を志して生きているのかを考えてみる必要があります。そして幸せになる為に、私たちは痛みや苦しみを受け入れる事も必要だという事を認めなければなりません。逃げているうちに私たちは何もかもを失ってしまう事があるのを忘れてはなりません。立ち向かう事によって、私たちは神様の国を作っていく事も出来ます。私たちは信仰の楽しみを学ばなければなりません。変わっていく事を恐れるのではなく、成長に繋いで、成長する喜びを学ばなければなりません。

初めの時に、子供たちのマンガの話をしましたよね。成長を確認したいという気持ちが子供たちマンガの中によく著されています。主人公より強く、とてもかなわない相手だった者を倒して、自分が強くなった事を確認する。実感する。そのような事が私たちの生活にあればよいのですが、ないから難しい。でも私たちは努力をしていると、自分でも知らないうちに成長して行きます。そしてある日、昔の自分が愚かだった事を悟る様になります。昔の自分を恥ずかしいと思う事はとても良い事です。何故？自分が変わった印だからです。昔の自分はずかしいと思うほど今の自分が変わっているからです。成長しているからです。自分が愚かだった、自分が浅知恵で動いていたと感じる事が出来ることは私達を本当に喜ばせるものにもなります。

信仰は、困った時の頼りではありません、私達を成長させて行くものだとすることを忘れないで下さい。告解(赦しの秘蹟)をする時、私たちがどんなものか悟る事ができます。どういうものを罪と感じるのか、私たちがどんなところにいるかを教えてくれます。「人殺しをしなければ良いのではないか、その他は罪になるような事はないのではないか」と思っている人はレベルが相当低い者です。そして、人を助けなかった事を本当に悪かったと思う人は、もうちょっと上になっているはずで、生きている事が全て罪だと思った事があったかはわかりませんが、その様に感じる事は自分が責任を感じるということにもなります。

仏教のカルマという“業”というものがあります。それはただ、悪い事だけを意味しているのではなく、私たちは本当に沢山の恵の中で生きていて、その恵に対して責任を意味する事でもあります。こんなに恵まれているのに、それを感謝する事もなく、それを他の人たちに返そうともしない、恩を知らない者を愚かだといったというのです。

私たちにはノルマというか、そういう十字架があり、いつも存在しています。それを正しく背負うことが時には負担として、あまり良くない事に感じられる事があるかも知れませんが、それが本当に知恵の道につながると言うことを忘れてはなりません。

信仰の中で私達は悩んだことがあります。神様はどんな方か。神様が今、私に望んで下さることは何なのかを悩んだ事があります。神様が本当に存在するのか、この世は何故あるのか、そうしたことを真剣に悩んだ事があります。死というものを本当に真剣に悩んだことがどれだけあるのでしょうか。そのようなことは、疲れる事でもあって、何か余計な事のように感じられるかも知れません。

でも、私たちが成長する為には、必ず必要なものでもあります。

私は今、私がもらった恵がどのようなものか分かっていて、そしてそれをどの位感謝したか。貰った恵に感謝しない事も、実を言えば、大きな罪ではないでしょうか。

監獄に入れられた人たちが、自分の足で監獄にもどるような修羅場が、チリで広がっていることを考えれば、私たちが今貰っている恵がどれだけのものかを考える事が出来るでしょう。それを感じようとしないで、無視して生きようとする事も実は罪なのです。でも人はそういう事を認めようとしないのです。何故？自分が貰った恩恵が強いと思うと、それに伴う責任を負うのが嫌だからです。認めようとしないのです。国が国民の為に色々な事をやってくれるのですが、それに伴って、税金を払う事が必要です。でもそれは出来るだけ避けたい事なのです。何故？お金がもっと欲しいからです。その様なものです。だから人たちはよく「国が私に何をしてくれたのか」、「信仰が私に何をしてくれたのか」、「親が私に何をしてくれたのか」、その様な考え方によって、自分では責任を取らなくて、自分の思うままに生きる事が出来るから、愚かな道を、人たちは自分で選んだりします。

私達は、神様が下さった十字架を、喜びを持って迎え入れ、色々な恐怖と戦いながら、前に進む事を望みながら、四旬節を過ごす事が必要ではないかと思えます。